

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまから平成24年12月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、3項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表からお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へ進行したいと思っております。なお、終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

【市長】 まだ12月には少し早うございますけれども、12月の定例記者会見であります。

衆議院のほうも解散をいたしまして、大変慌ただしくなっております。12月の選挙というのは余り数はないようでございますけれども、粛々と国民の皆さん方が冷静な判断の中で次の政権を選んでいただきたいなというふうに願っているところであります。

まず、12月補正予算案の概要について説明をさせていただきます。

今回の補正予算につきましては、人事異動等による人件費の調整を中心に予算措置を要するものを計上いたしました。

まず総務費では、国の原子力災害対策指針を受け、敦賀市の地域防災計画を改定するための業務委託料を計上いたしました。民生費では、子ども発達支援センターの開所に向け、療育用備品の購入費等を計上いたしました。衛生費では、東日本大震災により発生した災害廃棄物の本格受け入れに伴う放射線測定等に要する所要額を計上いたしました。商工費では、株式会社三徳の敦賀工場操業開始に係る企業立地補助金を、土木費では、景観形成地区のお魚通り、博物館通り及び門前町地区の外観整備に対する補助金を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要であります。

続きまして、平成24年度の敦賀市採用候補試験の実施について申し上げます。

お手元の通りでございますけれども、土木技師A、機械技師A、それぞれ若干名を募集をいたすところでございます。これは当初の採用の予定人数に達しなかったということでありまして、追加募集をするものであります。

次に、災害廃棄物の受け入れに係る試験焼却の測定結果についてであります。

10月26日に行いました災害廃棄物の試験焼却の安全性に係る検査項目につきまして、全ての結果が判明いたしましたのでご報告いたします。結果が出ておりませんでした検査項目のうち、ダイオキシンは基準値以下であり、アスベストは不検出でありました。さらなる安全が確認できましたので、決意も新たに本格受け入れを進めてまいりたいというふうに存じます。詳細につきましては、お手元の資料をごらんください。

発表項目は以上であります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました3つの項目につきまして質問をお受けしたいというふうに思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 総務費の防災計画策定事業費ですけれども、恐らくコンサルタント会社に委託するのではないかとと思うんですが、詳細を教えてください。

【市民生活部長】 防災指針が発表されまして、まだ完全ではないですが、12月とかいうことで国のほうが改めて決定し、追加の指針が示されてくると思います。この予算につきましてはコンサル等への委託料ということで計上させていただいております。目標はあくまでも3月いっぱいには原子力防災計画をまとめたと思っていますが、国の指針の確定がいつになるかによって若干時期がずれる可能性もあると思います。

【記者】 具体的に委託する業務内容はどんなものでしょうか。

【市民生活部長】 今のところの原子力防災計画については10キロ圏で網羅しておりますけれども、これを敦賀市全域に当てはめて考えていくということで、避難とかそういうものについては大々的に変わるというふうに思っております。

【記者】 コンサル業者は何をするんですか。

【市民生活部長】 今我々だけでやるというのも一つありますけれども、専門的なコンサ

ル会社等の知恵をかしていただいて、もっと正確にきちっとしたまとめをしてみたいなどというふうに思っております。

【記者】 先ほどの質問の追加なんですけれども、コンサルタント業者の名前を教えてくださいたいのと、あと、先ほどの質問にもあったんですけれども、コンサルタント業者は具体的に防災計画策定のどういう部分を担われることになるのでしょうか。

【市民生活部長】 先般、9月補正でいただきました避難対応マニュアルの作成についてもコンサルタントを入れておりますので、そういったことも反映したいと考えております。まだ事業者名は定かにしておりませんが、そういったところで専門的な知恵をかしていただきたいというふうに思っております。

【木村副市長】 今回、予算ということでございますので、執行に当たっては入札をすることになりますので、会社については入札が終わらないとわからないということでございます。今回の防災計画につきましては原子力規制委員会が指針を出しました。この指針を出した関係の分析をして、敦賀市に今あります防災計画の修正をかけるという業務もやるということですし、また、その中には資料等もございますので、その資料の整理のほうもきちっとやっていくということになります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいというふうに思います。

発表項目につきましてご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 試験焼却の測定結果、この結果を受けて本格受け入れはいつになったのかを教えてくださいたいですか。

【市民生活部長】 前の記者会見のときにもお話をさせてもらいましたけれども、今、専用のダンプトラックとコンテナの作製をずっとしておりますので、恐らくことしいっぱいまでには可能だろうということで、来年年明け早々からやりたいというふうに考えています。

【記者】 ということは、まだ正確には決まっていないということですか。

【市民生活部長】 はい。何月何日とまだ決まった状況ではございません。これから岩手県のほうと打ち合わせをして、協定等を締結してからの話になります。

【記者】 瓦れきの件でもう1点確認なんですけど、今回補正で充てられたこの金額というのは、いずれまた国から返ってくることになるのでしょうか。

【市民生活部長】 はい。国のほうから岩手県に行きまして、岩手県のほうから敦賀市のほうへ入ってくるという手はずになるかと思えます。

【記者】 今の質問の続きになるんですけれども、補正予算の事業概要のほうの5ページの247万1,000円でよろしいんですね。

【市民生活部長】 そういことです。

【記者】 この概要に放射線の管理、測定等を実施しますと書いてあるんですけれども、具体的に何をするためのお金なんですか。

【市民生活部長】 放射線量の測定ということでございまして、まず広域処理の木くずの受け入れの開始後毎週、これは週に1回ずつ4週間はかりたい。それから以後は2週間に1回はかりたい。それからセメント固化灰、これを2週間に1回。それから不燃物、ガラス、鉄くず等、これも2週間に1回。それから排ガスのセシウム濃度、これも2週間に1回。それから最終処分場の処理原水、これも2週間に1回。それから清掃センター及び最終処分場の敷地境界とかそういったところの放射線量、これを毎週1回計測する費用でございます。

【記者】 敦賀市がやるんですか、それとも誰かそういった専門の業者がやるんですか。

【市民生活部長】 敦賀市が専門の検査機関に依頼をしてはかっていたかということになります。

【記者】 その業者さんというのは、きょうの発表にもあったこちら……。

【市民生活部長】 発表した資料は、今、試験焼却に伴って入札によって決定した業者でございますが、今後の業者につきましてはまたかわる可能性があるかと思えます。

【記者】 じゃ、まとめていうと、今、週1回とか2週に1回とかいろいろ作業のお話がありましたけれども、その測定等を専門業者に委託するお金というふうに考えていいんですね。

【市民生活部長】　そういうことでございます。

【記者】　瓦れきの試験焼却について伺いたいんですけども、本格的な受け入れを敦賀市として表明されて以降、市内の方だったり市外の方から反発するような声は聞かれてないでしょうか。

【市民生活部長】　受け入れ発表後、主にほとんどが県外の方から177件の苦情がございました。市内は2件でございます。県内が5件、県外が149件、不明が21件でございます。本格的な受け入れの10月29日以降です。

【記者】　電話で問い合わせがあったということですか。

【市民生活部長】　電話が113件、封書が3件、ファクスが63件でございます。そして先ほどの反対という意見が177件ですが、問い合わせが2件ありましたので、このファクス、メール、電話等で179件になります。

【秘書広報課長補佐】　そのほかございませんでしょうか。

それでは、次第の3番目に移りたいというふうに思います。

フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これも幹事社さんのほうからよろしく願いいたします。

【記者】　選挙関連で市長にお聞きします。

まず1点が、高木自民党公認候補の事務所開きではご挨拶に参られました。本日の松宮さんのほうには行かなかつたわけですが、市長も高木さんを支持するというところで理解してよろしいでしょうか。

【市長】　高木候補は敦賀生まれ敦賀育ちの敦賀の人でありますし、私は敦賀の市長でありますので、やはり地元の人を応援をしたいなというふうに思います。ただ、松宮候補も非常に原子力関係、また政権の中に入られて活躍をいただいておりますので、でき得ればどちらか比例復活でまた2人当選していただければ一番いいなと思っています。

【記者】　次に、選挙関連で申し上げますと、日本維新の会ですが、石原さんについては8月にもんじゅを視察されたときも維持であると。一方で橋下さんは廃炉である、脱原発であるということなんですけれども、1回合流した後、脱原発の文字が消え、また先週末に脱原発依存ということでもとに戻ったんですけれども、この間の日本維新の訴える内容についてはどういうふうに評価されていますか。

【市長】　石原さんが代表になられたということで、いろんな政策をすり合わせるわけがありますから、少し意見の違う政党が一緒になったということでいろんな紆余曲折はあったんじゃないかなというふうに思います。ただ、最終的には明確な脱原子力というのは、日本維新の会からは、今の知る限りの報道では薄くなったと。また、それに反発をして滋賀県の嘉田知事が新しい政党を何か立ち上げるといふような話でありますので、日本維新の会としてはある程度現実的な路線を歩まれるんじゃないかなという気はいたしております。

【記者】　その嘉田知事が、きょうにも新党を立ち上げるといふことですが、嘉田さんに対する評価はいかがですか。

【市長】　嘉田さんは嘉田さんでおやりになっていることですから、コメントすることはございません。

【記者】　嘉田さんにコメントすることはないということでしたけれども、大飯再稼働のときもいろいろ発信されていらつしゃつたと思うんですが、その上で、今またこの時期になって嘉田さんが脱原発をテーマに新党を立ち上げられるということについて、地元立地の長として、あと全原協の会長として、率直なご感想として不快感というのはないんでしょうか。

【市長】　これは政治の世界ですので、いろんな思いを持って皆さん方取り組まれておりますので、それは自由ですし、嘉田さんは従来の新幹線駅は要らないということで出られた方ですので、そういう社会のいろんな仕組みに対して自分の思いを持った党を立ち上げていますので、全く不快感もございませんし、全く何も感じておりません。

【記者】　それは相手にしていないということではよろしいんですか。

【市長】　いや、別に何も感じないということでもあります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいと思います。

質問がございましたら挙手をお願いをいたします。

【記者】 先日、高木候補の事務所開きの後に市長は原発は争点にはならないというふうにおっしゃっていて、先ほどはまた冷静な判断もしてほしいというふうに言われていたと思うんですけども、市長は、では今回の選挙は何が争点になるというふうにお考えなんでしょうか。

【市長】 やはり一番国民の皆さん方の関心の高い景気回復を初め、特に外交問題等が国家として非常に大事なことでありますので、そういうことが社会保障を含めて主な争点になってくるんじゃないかなというふうに思います。全国的に見ますとそれはわかりませんが、私どもの地域においては原子力発電所というのはそれだけ大きな争点にはならないんじゃないかなというふうに理解はしております。

【記者】 それは必要と感じている方々が多いからということなんですかね。

【市長】 1年数カ月前の私の選挙の市長選でも反対する候補が出なかったという状況でございますので、本来であれば、ああいう状況であれば、過去の市長選挙を見ていまして必ず原子力に批判的な方が出られておりましたけれども、そういう方が出ないということは今回の衆議院選挙においても——これは敦賀市だけの話ですよ。ほかのことはわかりませんが——余りならないんじゃないかなというふうに感じております。

【記者】 同じく選挙関連です。今、県内の業界団体、自民に回帰する現象みたいなものが起きています。政権交代後、市長を初め首長の方がどういうふうに対応するかとか業界団体がどういうふうに対応するかというのが非常に悩ましい状況が続いてきたんですが、民主党政権の失策というか、そういうので戻ってきているような感じになっているんですけども、特に3区のそういう情勢についてどういうふうに見ていますか。

県内はもともと自民党が強いですけれども、自民党に大分その支持が戻ってきているような感じがするんですけども、3区で高木さんが有利かどうかとか、そういうふうに感じていることはありますか。

【市長】 3年前の衆議院選挙のとき、非常に自民党に対する逆風がすごくて、全国的に見てもかなり負けた状況の中で、福井県3区含めて自民党候補が勝ったという状況でありますので、そういうことを踏まえていけば、戻ってきたというよりも余りそういう支持基盤というのは変わっていないのかなというふうに感じていますし、俗に言う無党派なり、また、決めてない人の中でもやはり自民党という思いの人少しふえてきたのかなと思います。ただ、支持団体等々については前回とそう変わっていないんじゃないかなという気はいたしております。

【記者】 自民党のマニフェストでは、原子力については3年以内に再稼働の判断を全てして、10年以内に原子力政策をまた決めるというふうになってはいますが、その自民党の原子力についての政策をどう評価されるかという点。

それから、この選挙、争点にはならないということなんですが、各党いろんな原子力政策について方針を出していますが、市長としてはどういった政策が支持できるのか、支持したいのかというのを教えてください。

【市長】 私、従来から言っておりますように、やはり原子力というのは当面日本国家として必要な基幹電源であるというふうに今認識をいたしておりますので、そういう意味では脱といいますか、それを主眼に置いて戦う政党については遠慮をさせていただきたいというふうに思っております。自民党のほうも3年以内、10年以内ですから、あしたでも3年以内、10年以内ですので、いろんな状況を見きわめながら判断していただけるものだというふうに思っておりますが、やはり現実にはいろんな諸問題が今起きてきている状況でもあります。

先ほど言いました景気対策というのは非常に大きな一つの課題であります。そうなりますと、やはりしっかりとエネルギーを確保して景気回復にいろんな産業が動き出す、そしてまたエネルギーを確保することによって、多くの企業が海外へ、言い方は悪いですけども逃げていってしまうという状況は阻止をしませんと、絶対に景気回復、また雇用をしっかりと確保するという事は私は不可能だと思っておりますので、そういうものを見きわめて対応をしていただければいいかなとは思っております。維新の会も恐らくそ

ういうことに近くなるんじゃないかなというふうに思っています。

【記者】 つまり自民党の方針については評価できるけれども、より迅速に判断してほしいという、そういうことですね。

【市長】 はい。

【記者】 また選挙で済いません。

9月以降、原発問題については政府方針がつまびらかになったわけですがけれども、その節目ごとに市長はこれまでも、次いつ選挙になるかわからないと、選挙になったらその後どうなるかもわからないということをおっしゃっています。この選挙は結果的にどういう枠組みの中で政権握るかわかりませんが、選挙を経たら原子力問題はどのようにしてほしいというふうにお考えになっていますか。新しい政府には、原子力問題についてどういうふうに進めてほしいというふうにお考えですか。

【市長】 どういう政党が政権をとるとするのは今のところ全くわからない状況でございますので今何とも言えない状況もございますけれども、やはりエネルギー問題をしっかり考えながら、もちろんこれは安心、安全というのは最重要でありますし、特に規制庁がああいう形で今動いていますので、いろいろ厳しいチェックを受けながらの原子力行政になるというふうに思います。そのあたりを的確に見きわめてスピーディに、やはりいろんな判断をして行っていただける政権に期待をしたいと思います。

【記者】 民主党政権はあっち行ったりこっち行ったりもしましたけれども、そういうぶれないというか、そういうのを進めてほしいという希望はありますか。

【市長】 そうですね。民主党政権の中でそういう批判も多くあったようでありますし、国家としての政権が揺れますと、やはりその影響を受けるのは国民でありますので、恐らくそういう影響を受けた皆さん方も私どもの原子力行政のみならず非常に多いというふうに思います。そういう意味では、仮にまた民主党が政権をとられてもそういう反省点に立ってしっかりとした政権運営をしてほしいなというふうに思います。

【記者】 話変わって、今度1日、2日の敦賀原子力発電所の破砕帯調査の件なんですけれども、1カ月前の市長会見のほうでは田中規制委員会委員長のグレーか黒かという判断がありましたけれども、前は市長は推定無罪という話を持ち出して、何でもかんでもやるのはいかがなものかとおっしゃっていましたが、その気持ちは変わらないんですか。

【市長】 はい、変わっておりません。

【記者】 1日、2日に2日間、破砕帯の調査で原子力規制委員会の調査団が来ると思うんですけれども、改めてスピーディにしてほしいとか、さっきは政府の話だったんですけれども、しっかり見てほしいとか、どういうふうに市長はその調査団に要望というか、捉えているのかというのを教えてもらいたいです。

【市長】 専門家の先生方ですので、専門家としてしっかりと調査をしていただけたらなというふうに思います。

【記者】 できるだけ早く結果を出してほしいとか、そういうふうには考えていないんですか。

【市長】 そうですね。ああいう世界というのは私どもどういうふうに結論づけるかというのはちょっとわからないものですから、先生方なりにそういうふうな判断をされれば早く結果を出していただいたほうが何かにつけてありがたいと思います。

【記者】 選挙に戻りまして、日本維新の会の38歳の候補も食品会社を今週から休職を始めて、今週こっこのほうにアパートを借りるということで1カ月程度住むそうなんですけれども、それで地元の気持ちがわかるんでしょうか。そのあたりいかがですか。

【市長】 どこからでも出られるように法律でなっていますので、それは自由だというふうに思います。ただ、地方へ行きますとやはり地方のきずながございますので、そういう中へぼんと入られてやってもなかなか浸透というのは難しいんじゃないかなというふうに思います。日本維新の会という非常に知名度の高い、また石原前東京都知事、また橋下大阪市長がバックについておりますのでどれだけ発揮するかというのは未知数でありますけれども、基本的には地元をやはり知っている人のほうが、田舎の選挙はそういう方のほうが強いんじゃないかなというふうには感じてはおります。

【記者】 敦賀原発の破砕帯の問題なんですけれども、先ほど市長は早く結論を出してほ

しいとおっしゃいましたけれども、具体的に来年の7月に再稼働のための安全基準というのでできると思うんですけれども、そこまでには結論を出してほしいとか、何かその明確な期限というのがありますでしょうか。

【市長】 先ほど言いましたように技術的なことはちょっとわからないものですから、やはり来年7月が一つの大きなチェックポイントみたいな時期になります。でき得ればそれまでに結論を出して、やはり敦賀の2号機についても早く再稼働をという地元の思いもございまして、そういうものに合致して、これは結果がわかりませんのでどうなるかわかりませんが、もし仮に大丈夫であるということになれば早くそれをお示しをいただいて再稼働につながっていけばいいなというふうに思っています。

【記者】 今の関連で、大飯のこの間の破砕帯の調査の後の議論を見ているとなかなか結論が出ないような状況になっているんですけれども、敦賀に関してもそういう状況もあり得るのかなと思いますけれども、何か懸念されていることというのがありますか。

【市長】 これも専門家の皆さん方のすることではなかなか素人は口が挟みにくいんですが、できれば何か大きいレントゲンみたいなものがあって、そういう音波か何かでそこを調査して、これは大丈夫であるとか何か明確なものができるものがあれば早く結論を出せる。外から見て「いや、これは破砕帯だ」と言う人や「いや、断層だ」と言う人やいろいろなその科学者によって意見が異なって、何か全員がこうならなくちゃならないと言っていますと半永久的に結論が出ないまま先延ばし先延ばしになるんじゃないかという懸念があります。

【記者】 破砕帯に関連して伺いたいんですけれども、規制委員会の破砕帯現地調査を終えて、今先延ばしというのをとおっしゃいました。今後その判断に注目が集まると思うんですけれども、一方で、市長はかねてからおっしゃっている敦賀原発3・4号機の今後についてはどのように必要性を訴えていきたいと思われませんか。

【市長】 これは基幹電源としてある程度これからの再生可能エネルギーが普及するまで、要するにコスト的な面を含めて普及するまで。ただ、再生可能エネルギーというのは基幹電源にはなり得ることが難しいものだというふうに私どもも聞き及んでおりますので、そういう意味では基幹電源というのはいつのときでも必要であると。

そういう中で特に今、石炭火力も基幹電源の一つでありますけれども、CO₂の問題等を考えていったときに、やはり当面、これは当面といいますが50年か100年かというのは一概にわかりませんが、そういうものは必要だというふうに私は思っております。

そうなりますと、やはり古くなった原子炉を、今は40年とまだ法律的にはあと20年でうまくいって60年です。それでも十分3・4号機というのは必要性が出てくるというふうに思っていますので、ぜひいろんな調査、破砕帯の調査なども終えていただいて、3・4号機については国としてしっかり、より安全な原子力発電所をつくるというスタンスをとっていただければいいなというふうに思っています。

【記者】 新党がいっぱいできていくわけですが、相次いで最近できている政党というのは原子力問題を取り上げています。市長はこれまで立地の思いをということをよくおっしゃっているわけですが、今の政党が乱立する、生まれてくる、これについて立地の思いというのは伝わっているのでしょうか。それとも外野で、立地を除いたところでやっている話だというふうに見られますか。

【市長】 たくさんの政党が出る、特に反原子力ということで何かタケノコのように政党が出てきましたけれども、やはりいろんな地域へ行くと、原子力は怖いね、危ないねという思いの皆さんが多いというこの風を感じて、これなら選挙に勝てるかもしれないという思いの中でやっていらっしゃるんじゃないかなと、それが今の時代の一つの流れ、風じゃないかなというふうに思っています。

【記者】 立地の思いは伝わっている、届いているというふうに思われますか。

【市長】 恐らく立地といいますが日本全体からすれば微々たる数の人間が住んでいるだけのところではありますし、その地域が実はいろんな経済を支えてきたという自負はありますけれども、そんなことは恐らく思っていないんじゃないかなというふうに思いますので、立地の思いは感じていないというふうに思っています。

【記者】 先ほどからの質問にちょっと関係するんですけれども、大飯原発再稼働のとき

に非常に立地が悪者にされているというような話があってじくじたる思いをされていていらっしやっただと思うんです。その際に国のほうできちんと立地の苦勞であるとか歴史を国民に広く伝えて理解してもらおうということが再稼働の一つの前提だったと思うんですけれども、再稼働を経た今、嘉田知事の新党に代表されるように脱原発、原発は怖い、危ないという主張をその柱にした新党が次々と出てきているという状況について、立地の代表としてどういう思いなんでしょうか。

【市長】 そういう風が吹いている、その風を受けていこうというヨットがちょこちょことふえてきただけだと思っています。それに乗れば前へ進むんじゃないかという思いじゃないかと思えますけれども。

【記者】 その思いは間違っているというような。

【市長】 それは自由だと思います。

【記者】 破砕帯の件に戻るんですけども、敦賀原発の原子炉直下に破砕帯が通っていることをご存じだと思いますけれども、田中委員長は廃炉を求めるかどうかというのは名言されていないんですけれども、市長として、もし原子炉直下の破砕帯が活断層だということが判明すれば廃炉を求めていく考えなのかどうかを教えてください。

【市長】 これは法律で、断層の上には原子炉がつかれないという法律がありますので、その法律が変わらない限りは自然にそうなるんじゃないかなというふうに思います。ただ、法律が変わり、断層であっても安全であれば原子炉として使えるということになれば、それはまたまだまだ使える、恐らくあと20年ぐらいは使える原子炉でありますので、安全であれば使っていけばいいというふうに思います。

【記者】 ということは、現状では廃炉を求めていく、もし活断層であれば廃炉を求めていく考えということでよろしいでしょうか。

【市長】 活断層であれば求めるというよりも、自然にそうなるべきでありましょうし、いつも言うんですが、もともと3・4号機が立ち上がっていたときにもう自動的に廃炉にしようというお話でございましたので、それが少し状況が変わってきておりますから。ただ、法律が今決まっている以上は廃炉にならざるを得ないんじゃないかなと思います。

【記者】 選挙後に政権がかわった場合は、民主党政権が出した2030年代原発ゼロというものも変わっていくんじゃないかと思うんですが、あの2030年代ゼロが決まった背景は、一応国民的議論で話を進めて、最終的には首相と大臣数人で密室でどんと決めたという、そういう経緯があると思うんですが、今後、国民から信頼される原子力政策を決めるためには誰がどうやって原子力政策を決めていくべきだと思いますか。

【市長】 もちろんこれは最終的には政治判断だというふうに思いますけれども、特に原子力の新大綱の会議がございまして、そういう中でいろいろ議論がされておったところがございます。私もその委員の一人として入っておりました。中には推進をしていこうという皆さん、またそういう学者、立地地域の代表、そして原子力に批判的な方々が入っている議論をされておりましたけれども、それも急遽、ぼんと打ち切って、今おっしゃったような30年代にゼロにするからもうそういう会議は必要ないという非常に乱暴な動きもあったことも事実でありますし、そういうものを復活をさせていろんな範囲から広く国民の声を聞いて、やはり原子力政策は決めていかなくちやならんと思います。

また、原子力政策というのは国内のみならずいろいろ諸外国との関係もございまして、逆に言えばそういう外国の皆さん方も入れてグローバルに議論をするような会議を、やはりぜひ民主党政権に仮になってもそういう形をとってほしいなというふうに願います。

【記者】 2日の夕方ですけれども、平和堂前に橋下大阪市長がお見えになって日本維新の会の公認予定者と一緒に街頭演説するという事なんですけれども、市長は橋下さんとお会いする予定とか、あるいはお会いしたいとかというのはありますか。

【市長】 予定はございません。

【記者】 関西電力が電気料金の値上げを申請しましたが、立地自治体の市長としてどのような感想を持たれたのか教えてください。

【市長】 今、電力会社のほうも非常に燃料費の高騰ということで苦しい状況だというふうに伺っております。もちろんこれからいろいろ国が査定も何かするようでもありますので、できる限り国民生活、住民の皆さん方の負担にならないような形で値上げをせずに済めば

いいんですけれども、今の現況を見る限りではある程度はやむを得ないなというふうに思っています。そういう意味で安全確認がされた原子力発電所がもう少し稼働すれば、当面そういう事態には陥らないんじゃないかなというふうに思っています。

【記者】 それともう1点ありまして、全然関係ないんですけれども、赤レンガ倉庫の全国大会があったと思うんですけれども、市長は6月ぐらいに年内に整備計画を出して、できるだけ早く耐震補強を進めていきたいというお話をされていたと思うんですが。

【塚本副市長】 今、市民の意見を聞いて、耐震は耐震としてきっちりやっていくんですけれども、その中をどう使うかということがやっぱりセットなんですね。そこら辺、今市民の意見を集約しながら年度内にはきちっとしたどういうものをしようという意思表示はできるような状態に持っていきたいというふうに思っています。

【記者】 いつから耐震補強をやりたいみたいな、そういう何か方針というのはあるんですか。

【塚本副市長】 予算といろいろ絡みますので、何とか年度内にはっきり年次計画、スケジュールはきちっと明確にしたいというふうに思っています。

【記者】 あと、やっぱり経費が問題で、6億かかるとかそれ以下で抑えられるとか、何かそういう話が出ているんですけれども、最低でもどのぐらいかかるんですかね。

【塚本副市長】 そこが実際問題、どういうやり方でやるかによって少し億単位でオーダー変わるんですよ。今非常に敦賀市も財政状況が厳しいものですから、そのあたりコストを考えてより安全なものをつくるということと、そして中身についてもその施設の、すばらしければすばらしいほどいいんですけれども、そこら辺も身の丈に合ったものをきっちりつくっていくということも必要なので、両方の観点から何らかの形で当初予算に盛り込むような形にしたいというふうに思っています。

【記者】 最初の質問に戻ります。

市長は衆院選で高木さんを支持、松宮さんは比例で復活していただきたいということをおっしゃっていましたが、そういう理解でいいですか。シンプルにお答えいただきたいと思います。

【市長】 これはもう私は、高木さんは地元の人であるし、松宮さんはやはり現政権の、特に経済産業副大臣もされている。特に松宮先生は原子力については非常に造詣も深く、また何とかやらないかんという非常に強い思いを持っている方でありましたので、そういう意味では政策的には余り大きく変わらないということもありますので、お2人うまくなっていただけりゃ一番いいなと思っています。

【記者】 出陣式は高木候補……。

【市長】 4日をご承知のとおり議会の開会日でありまして、例えば同じように敦賀市内であると、これは両方とも駆け回らないかんのですけれども、どうしても市内しか行けないという事情もございまして、これはいたし方ないというふうに思っております。

【記者】 前回、かなり敦賀市外に出て応援活動にも参加されていたように記憶するんですけれども、今回はどうなんですか。

【市長】 恐らく私がいろんなところに回ると逆に票を減らすという思いがございまして、余り目立たないように地道に応援をしたいなと思っています。

【記者】 それは越前市とかそういうところに行くと票が減るんじゃないかというふうに思うからですか。

【市長】 いや、それはちょっとそこまで分析しておりません。

【秘書広報課長補佐】 ほか、ございませんでしょうか。

【市民生活部長】 先ほどNHKさんのほうで質問があったんですけれども、あれは本格焼却後ですか、試験焼却後の話でしょうか。どちらでしょうか。

【記者】 試験焼却後です。

【市民生活部長】 試験焼却後の1週間ほどの数でしたら先ほど言った数に間違いございません。本格焼却を今月初めに市長が発表してからはほとんどそういう意見はありません。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして12月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

【市長】 ありがとうございます。

午後 2 時45分 終了